

様式1 平成 29年度 山梨県立富士見支援学校旭分校学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針 子どもたちの病状に配慮し、健康の回復を図りながら義務教育における学習空白を補完するとともに、社会の中で人と関わりながら生きていくための力を育む。

山梨県立富士見支援学校旭分校 校長 石原 一彦

本年度の重点目標	1 児童生徒の実態に即した支援や学習指導を行い、一人一人の確かな学力を育む。
	2 健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、社会に参加する態度を育成する。
	3 病弱児教育に関する専門性の充実を図り、信頼される学校づくりを行う。

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価			
本年度の重点目標		年度末評価(3月14日現在)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	児童生徒の実態に即した支援や学習指導を行い、一人一人の確かな学力を育む。	合理的配慮を踏まえた個別的教育支援計画を作成し、個別の指導計画に基づいた学習の状況や結果を適切に評価し、指導の改善を図る。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)
		ICT教材の活用や体験的活動など、指導法を工夫することにより、わかる喜びを実感できる授業を行い、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)
2	健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、社会に参加する態度を育成する。	教育課程に児童生徒の病態を考慮した系統的・体系的なキャリア教育を位置づけ、その充実を図る。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)
		保健教育や道徳教育を通して、自他を大切にすることを育て、基本的な生活習慣を身につけさせる。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)
3	病弱児教育に関する専門性の充実を図り、信頼される学校づくりを行う。	具体的な支援に活かせる事例研究や指導法の工夫など、専門性の向上をめざした校内研究を進める。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)
		行き届いたチーム支援に努めるとともに、地域の関係機関と連携しながら、体験的活動や校外学習の充実を図る。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)

学校関係者評価	
実施日(平成30年2月20日)	
意見・要望等	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画の作成や生徒理解・特別活動などの様々な項目で前期評価に比べポイントの上昇が見られる。このような長所や強みを教職員間で共有し、さらに質の高い実践がなされることを期待する。 ・一人一人の事情や状況に合わせて教育支援計画を作成し実行できている。また、通常の方法では学習することが難しい児童生徒に対しても指導法を工夫し対応している。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちと信頼関係をしっかりと築けており、生活面や道徳面においても成長を促している。 ・難しい生徒が増えているのか、進路指導に苦慮する事例があった。対策を検討する必要があるかもしれない。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のことについて十分に聞くことができなかったが、教師間で授業を見合う機会や授業について省察する機会を、いかにつくり出していくかがポイントになる。 ・対応が難しい児童生徒に、どうアプローチが有効かしっかりと分析し、専門的な対応を進めている。原籍校への連携も適切に行われている。 ・地域と協力し、良い教育活動ができていると考える。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。